

承認/1991年3月8日

例会日/火曜日・PM6:30

例会場/名古屋マリオットアソシアホテル

事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号

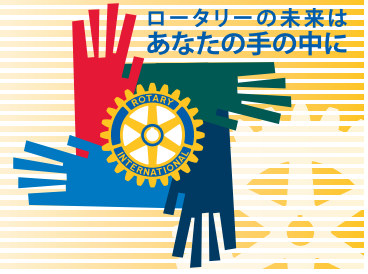
名古屋マリオットアソシアホテル2202号

TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

会長/小野 雅之

幹事/木下 福郎

会報・雑誌・広報委員長/
朝比美和子



2009-2010

WEEKLY REPORT

2009-2010年 RI会長 ジョン・ケニー

URL <http://www.meinan-rotary.com>

E-mail info@meinan-rotary.com

第904回

2010年4月20日(火) 雨 第37回

～雑誌月間～

斉唱 日も風も星も
出席 会員 68名 (出席率算入人数 60名)
出席 47名 出席率 78.33%
前々回補填率 93.55% (4月6日分)
ゲスト 名古屋工業大学大学院
社会工学専攻 河辺伸二教授
ビジター 桑名 RC 伊藤明人さん

会長あいさつ

会長 小野 雅之さん

先月25日に中央有鄰学院の開所式が行われまして、私と佐々木さんとで行って参りました。敷地面積が4033㎡、建物延面積が1683㎡で、その内乳児部が2590㎡、児童部が1424㎡となっております。建設の基本方針は次のようになっております。



1. 乳幼児期から高校卒業まで、一貫して安定した生活環境の中で子ども達が暮らせ自立するまで生活する乳児院と児童養護施設を合築して建設します。
2. 児童養護施設は、暖かい家庭的な雰囲気をつくり、児童の個性を伸ばせるよう小舎制にし、2戸建を3棟建設します。乳児院は4つのユニットからなり、子ども達はそれぞれ異年齢のグループで生活します。
3. 出来るだけ早い時期に家庭復帰が出来るよう、親子で一緒に生活訓練が出来る宿舎や自立した子どもが里帰り出来る部屋など家族支援や自立後の子どもへのアフターケアの施設があります。
4. 地域社会の子育て支援を行います。ショートステイの児童を受入たり、開放的なホールや地域の親子が気軽に遊びに来られるよう地域交流スペースを設けています。

建物全体としては、木をふんだんに使っており優しい雰囲気が感じられます。我々名南RCはこの開所にあたり、遊具一式を贈呈して参りました。このような素敵な建物の中で、恵まれない子供達がすくすくと立派な人間に育っていくことを願った次第であります。

幹事報告

幹事 木下 福郎さん

1. 海外出張届けが出ております。黒田康正さん、4月20日～25日、中国へ商用です。
2. ロータリーレートが、5月より現在の90円から92円に変更になります。

ニコボックス

- ◆ 本日は、名古屋工業大学大学院 社会工学専攻 河辺伸二教授による外部卓話です。楽しいお話、よろしくお願いたします。

白銀 義昭さん 山本 誠一さん 宮澤 伸光さん
伊藤 圭一さん 杉山 隆秀さん 牧野 好弘さん
中村 勝さん 林 隆二さん 榎原 和美さん
中西 芳子さん 野々村 憲吾さん 長尾 浅吉さん
浅井 浩さん 鈴木 清詞さん 川辺 清次さん
出田真太郎さん 坂本 晃さん 加藤 英敏さん
宮崎 良一さん 木下 福郎さん 田中 一雄さん
小野 雅之さん 久米 伸治さん 朝比美和子さん
伊藤 博昭さん 平沼 里子さん 犬飼りさ枝さん
三島多恵子さん 本多 利郎さん 太田 敦士さん
山崎 淳さん 江上 隆夫さん 武藤 正行さん

- ◆ 環境保全の外部卓話に河辺教授をお招き致しました。宜しくお願致します。 大橋さなえさん

- ◆ 弟 三浦隆のお見舞いありがとうございます。本人は元気で今月一杯休みますとのことです。

三浦 和人さん

- ◆ やっといけばな展も終わりました。お忙しいところ皆様お出かけ下さいまして有りがとうございました。 堀田 光江さん

- ◆ 堀田さんのお花展にお邪魔して日本文化の素晴らしさにふれ、心のなごむ一時を過ごさせて頂きありがとうございます。 坂田 信子さん

◆ 今週の言葉 ◆

「帰る時、来る時よりも美しく」

本日合計 49,000円 累計 1,809,000円

委員会報告

■社会奉仕委員会 委員長 佐々木 眞さん

名古屋養育院と中央有鄰学院から礼状が届いております。今回のウィークリーに写真も掲載してありますのでご覧下さい。

同好会報告

■ハイキング同好会 榊原 和美さん
出席袋に「熊野古道へのお誘い」ということで案内を入れております。今回が同好会再開の第2回目になります。今回は尾鷲まで出張して、馬越峠という熊野古道で一番石畳の綺麗な所へ行きます。往復2時間半くらいのコースで、普通に歩ける人なら大丈夫ですのでぜひたくさんの方に出席をお願いしたいと思います。日にちは、5月22日(土)と23日(日)のどちらか希望の多いほうで決定したいと思いますので、アンケート用紙に回答を頂きたいと思います。締め切りは4月27日です。

副幹事報告

■副幹事 吉木 邦男さん
今日第1回目の事前クラブ協議会を行いました。第2回の開催は5月25日です。当日はゆったり例会のため例会場がホテルアソシア名古屋ターミナルになります。従いまして事前クラブ協議会の会場もホテルアソシア名古屋ターミナルの19階「さくら」になります。今日の配布資料に明記してありますので、場所のお間違いがないように関係各位の方ご出席をお願い致します。

外部卓話

■名古屋工業大学大学院 社会工学専攻
教授 河辺 伸二様

今日は「廃プラスチックと木材によるリサイクルボードの開発」
「名古屋工業大学のエコキャップ運動～捨てるより集めて救えエコキャップ～」というタイトルでお話させていただきます。

皆さんエコキャップ運動をご存知だと思います。ペットボトルのPETは非常に高純度、高級な樹脂で、服などにリサイクルされています。キャップの部分もPPやPEやポリウレタンを使っていて、素材としてははっきりしている材料なんですけど、残念なことにキャップ自体に中蓋が付いている製品があります。その素材は、外側がポリプロピレンで中がポリエチレンになり、分別に手間が掛かります。素材としては純度の高い良いものですが、リサイクルの分別の手間や、汚れを取ったり塗料が付いているものを取り除くのに手間がかかりコストがかかる為、結局新しいものを作る時には、素材のはっきりしている新しいものを使うというのがどうしても主流になってしまいます。

今、「地球に愛を 子供に愛を」ということで、このキャップを各子供会や自治体で集め、800個集めると20円になりポリオワクチン1人分に交換するというエコキャップ推進協会というのが横浜にあります。皆さんが子供会で集めたものはこのエコキャップ推進協会に送るか、イオンでもそのような運動をしているので、そちらの方へ送ったりすることが多いです。当然ですが、集めたキャップがポリオワクチンに変化する訳ではありませんから、推進協会はこちらを売った売却益でワクチンを買います。私はこの運動とは関わりが無く、全く別の組織です。しか



し、この集めたキャップをなんとか使う道を考えなければならぬということがリサイクルボードを作る発端の一つでもありました。

世の中にこのようなリサイクルボードは色々なところから色々なものが出ていますが、実を言うとなかなか長続きしません。それはもちろんコストが合わない、原料が均一に入らない、また、均一な材料として綺麗なものが入ったり入らなかったりということで、原料を受け入れる方にもなかなか難しいのです。また、今回はキャップでお話しますが、実はキャップだけではなくて、化学繊維ならば何でもということで、例えば合成繊維のカーテンの屑とか、農業用ビニールの屑なんかもリサイクルをしようと当初は目論んでいました。木屑も今はパレットを主に使っていますが、約10年間共同研究している間には、それ以外に例えば新聞の古紙を使ったり、鉄道メーカーの定期券と回数券を粉砕して作ったり、色々な事を試行錯誤していたのですが、今はキャップと木屑に落ち着いています。

リサイクルはなかなかビジネスになりません。儲からないから結局下火になっていって最終的には事業撤廃してしまうパターンが多いです。今日お配りしたパンフレットのトピアさんという会社は、実はリサイクルボードを作っている会社ではありません。そこは機械設計屋で、トヨタ自動車や三菱自動車の工場を使う機械を設計することが主流の会社です。それでありながらなぜこういう事業をしているかということ、リサイクルボードを作るプラントを設計するのがこのトピアさんという会社です。売するための設計ということで、その時に色々な基礎的なデータや研究開発をしてきたというのがこの10年間になっています。

では、名工大としては何をしているかということ、学生が飲んだペットボトルのキャップを集めています。エコキャップ推進協会に送るのはいいのですが、その次にリサイクルメーカーというのがあって、そこはうちとは関係していません。しかし、リサイクルメーカーにプラントを設計して売ったのが共同研究をしているトピアさんで、そのメーカーからリサイクルボードを買っているということになります。そのリサイクルボードを買って、私は建築学科の教員ですので大工仕事の授業で使い、学生が家具のベンチを作りました。そのベンチをキャンパス内に置いて、そこで学生達が寛いでペットボトルでお茶を飲むという1つの枠組みをしようと思ったのです。「ひとづくり、ものづくり、未来づくり」という3つの理念が名工大にはあります。「ひとづくり」は、リサイクルボードを使ってものを作るということで、エコという環境意識を向上させようという取り組みです。「ものづくり」は、本来なら合板で作ればよいベンチをリサイクルボードで作って、建築教育の一環としてのものづくりをするということです。そして「未来づくり」は、こういう取り組みが名工大だけではなくて、世の中に広く広がっていけば、未来も持続可能な活動ができるのではないかとということで、名工大の3つの理念の元に動いているということです。

リサイクルボードの工場では、キャップを綿菓子のようにします。キャップを粉砕して木屑に混ぜるだけでは圧縮して板にした時に強度が出ないので、

繊維状にして混ぜて強度を出し、二人で持ってもたわんで割れない90cm×180cmの板が作られます。木屑はパレットを木屑にしたものを使います。東京エコタウンという千葉の木更津にある工場には連続成型機が並んでおり、そこに成型したリサイクルボードの在庫が沢山できています。本来はこれを沢山作ってどんどん売るのがビジネスなんです、リサイクル商品はなかなか売り先が難しいのです。今回は東京木工所という会社が約40億くらいかけて工場を建てています。東京木工所さんは家具の芯材を作っている会社です。普通の家具は真ん中に屑板があって、その表面だけに綺麗な合板、またはプリントシールが貼ってあるものも多く、その基盤にするということで作っています。建築で使う標準的なサイズ90cm×180cmの板が約18kgで、その内プラスチックが9kg（キャップ約3600個）、木屑が9kgです。密度は0.93で、普通の合板は0.5～0.6ですから、少し重いのが特徴です。合板は丸太を大根の桂剥きの要領で縦、横90度回転させながら薄く剥き、重ねてプレスする時に接着剤を付けて作るため、その接着剤がホルムアルデヒドを放出して、シックハウスの原因となります。ところがリサイクルボードはホルムアルデヒドを排出しません。これが一つの特長です。リサイクルボードは釘打ちや、のこぎりで切断ができます。これは建材としては非常に重要なことです。また、リサイクルボードは古くなってもう一回粉碎して再生できます。最終的に使えなくなったら捨てるしかありませんが、焼却処分できます。また、重いことも一つの特長で、重いことによってリサイクルボードは遮音性が良いのです。

名工大の私たちの研究室は、環境に対する取り組みとして、できることをやろうということが趣旨で、生協と共同活動でペットボトルのキャップ回収ボックスを作りました。そしてベンチを作ったり、オープンキャンパスでは高校生にペットボトルの冷たいお茶を配り、飲み終わったらキャップを回収しています。また、建築展でリサイクルボードの宣伝をしたりしています。

一週間前にNHKの「ほっとイブニング」でとりあげられ名古屋工業大学から生中継されました。

本日はありがとうございました。

第 906 回例会 (5月11日) のご案内
クラブフォーラム 地区協議会報告